

## 第4章

# 目黒区環境マネジメントシステムの取組

区の環境マネジメントシステムである「目黒区地球温暖化対策推進第二次実行計画（めぐるエコ・プランⅡ）」における2017（平成29）年度の取組実績と、取組に対する評価について報告します。

## 2017（平成29）年度の取組結果

### 温室効果ガス排出量・エネルギー使用量の削減

7月の気温が平年より高く、また、12月から1月の気温が平年を下回る気象状況で、同月の電気・ガスの使用量は前年度比より大幅増となりましたが、省エネルギー機器の導入及び節電、節水に取り組んだ結果、温室効果ガス（二酸化炭素換算）排出量原単位は、2012（平成24）年度（基準値）と比較して0.1%減少しました。また、エネルギー（原油換算）使用量原単位も、2012（平成24）年度（基準値）と比較して1.4%減少しました。

温室効果ガス（二酸化炭素換算）総排出量（算出方法：使用量など×排出係数）について排出源別に見ると、電気（66.4%）、次いで都市ガス（29.8%）となっており、上位2項目で96.2%を占めています。このことから、温室効果ガスの排出量の削減には、電気・ガスの使用量を削減することが重要であるといえます。

＜温室効果ガス排出量・エネルギー使用量と内訳＞

区分	2012 (平成24) 年度 (基準年)	2017 (平成29) 年度	対基準 年度比
温室効果ガス (二酸化炭素換算) 排出量原単位 (単位:tCO <sub>2</sub> /千m <sup>2</sup> )	43.071	43.045	-0.1%
エネルギー(原油換 算)使用量原単位 (単位:KL/千m <sup>3</sup> )	23.415	23.079	-1.4%
電気(千kWh)	32,081	32,427	+1.1%
都市ガス(千m <sup>3</sup> )	2,862	2,950	+3.1%
水道(千m <sup>3</sup> )	793	721	-9.1%
下水道(千m <sup>3</sup> )	799	719	-10.0%
ガソリン*(千L)	38	47	+23.6%

※ ガソリンは使用量ではなく購入量。

### 環境負荷の低減に向けた取組

「ごみの排出量」と「紙の使用量」は、前年度以下に減らすことを目標としています。2016（平成28）年度と比較すると、ごみの排出量は減少しました。紙の使用量のうち、用紙の購入量は増加しましたが、外注印刷物は減少しました。

＜ごみの排出量＞

(単位:t)

区分	2016 (平成28) 年度	2017 (平成29) 年度	対前年度 比	
排出量	1,123	1,100	-2.0%	
内訳	燃やすごみ	940	923	-1.8%
	燃やさないごみ	157	153	-2.5%
	資源	25	25	0%

＜紙の使用量＞

(単位:万枚)

区分	2016 (平成28) 年度	2017 (平成29) 年度	対前年度 比
用紙の購入量	4,166	4,369	+4.9%
外注印刷物	3,480	3,451	-0.8%

※ 紙はA4サイズに換算しています。

## 2017（平成29）年度の取組結果に対する評価

区民と学識経験者からなる第三者評価委員会が、「めぐろエコ・プランⅡ」の2017（平成29）年度の取組結果について評価しました。評価結果を踏まえ、今後も環境負荷の低減に努めていきます。

### （取組全体に対する意見）

異常気象下の中、対前年度比でここまで数値を戻したことは評価したい。しかし、温室効果ガス排出量の削減が不十分であるので、目標達成に向けた抜本的な改善策を検討する必要がある。時代に即した実行計画（エコ・プラン）を策定し、推進体制や取組を強化してほしい。

### 用語解説

用語	説明	頁
ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（ZEH）	住宅の高断熱化と高効率設備により、快適な室内環境と大幅な省エネルギーを同時に実現した上で、太陽光発電等によってエネルギーを創り、年間に消費する正味（ネット）のエネルギー量が概ねゼロとなる住宅のこと。	1
ヒートアイランド現象	都心域の気温が郊外に比べて高くなる現象で、等温線を書くと島状に見えるためヒートアイランド（熱の島）といわれる。人工排熱（空調排熱や自動車からの排熱）の増加や、自然地（土、水面、緑地等）の減少が原因で引き起こされる。	2
環境配慮型の道路整備	保水性舗装（空隙を多くしたアスファルトの中に保水材を充填した構造で、降雨によりしみ込んだ水が蒸発する際の気化熱を利用した路面温度の上昇を抑制する舗装）や遮熱性舗装（路面に太陽光の赤外線を反射する遮熱材を塗布した、路面温度の上昇を抑制する舗装）などがある。	4 5
温室効果ガス	太陽光線によって暖められた地表面から放射される赤外線を吸収し、大気を暖め、一部の熱を再放射して地表面の温度を高める効果をもつガス。二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素など。	4 16
エコロジカルネットワーク	人と自然の共生を確保するため、生態的なまとまりを考慮した上で、自然地域を有機的に繋いだ生態系のネットワークのこと。ネットワークの形成により、野生生物の生息・生育空間の確保、人と自然とのふれあいの場の提供、地球温暖化防止など、多面的な機能が発揮されることが期待される。	8
光化学オキシダント	大気中で太陽光中の紫外線を受けて、光化学反応により生成する大気汚染物質群のうち、二酸化窒素を除いたもの。	10 11
窒素酸化物	燃料中や空気中の窒素が燃焼して酸化することにより生成する物質。健康影響のほか、光化学オキシダントの原因物質のひとつとなる。	10 11
BOD（生物化学的酸素要求量）	河川の水質を表す指標のひとつで、水中の微生物が有機物を酸化・分解するときに消費する酸素の量を示す。BOD値が大きいほど汚濁物質（有機物）が多く、水の汚濁が進んでいるといえる。	10
DO（溶存酸素量）	河川の水質を表す指標のひとつで、水中に含まれる酸素量のこと。	10
河床整正・浚渫	河床をならし、堆積した土砂を取り除くこと。	11
カーボン・オフセット	温室効果ガス排出量のうち、どうしても削減できない量の全部又は一部を他の場所での排出削減・吸収量でオフセット（埋め合わせ）すること。	13